

感染症情報 6月20日～26日

府下小児科199医療機関（堺市19）から

①感染性胃腸炎	1249例	（堺市 52例）
②ヘルパンギーナ	695例	（堺市 20例）
③溶連菌感染症	538例	（堺市 35例）
④おたふくかぜ	345例	（堺市 20例）
⑤咽頭結膜熱	173例	（堺市 8例）

が報告された。

感染症報告数は全体として前週と変わらず、ヘルパンギーナの増加が続き、第1位が感染性胃腸炎、第2位がヘルパンギーナ、第3位に溶連菌感染症が入った。ヘルパンギーナは前週に引き続き、51%と大幅に増加した。1, 2歳児に多く、高熱とよだれ、口内炎による痛みのため、食欲が減退するが、熱は2, 3日で収まる。泉北でも流行している保育園、こども園がある。熱が収まって1日経過し、食欲があれば登園は可能である。おたふくかぜも前週より更に12%増加し、潜伏期が2週間と長く、泉北でも3回目の流行を迎えた学校・園がある。髄膜炎の合併が5%程度と多く、1000人に一人程度に難聴を合併する。任意接種ではあるが2回のワクチン接種をしておきたい。夏型感染症の咽頭結膜熱（プール熱）は横ばいで、同じアデノウイルスによる扁桃炎は高熱が長引くケースも多い。